

第3回「子ども映画撮影会シナリオ」『ギリシア神話』第一稿

A組 「狩人オリオン」

登場人物

オリオン……………狩人

アルテミス……………狩猟、月、純潔の女神

アポロン……………太陽神、本来は音楽、弓矢、牧畜の神。アルテミスの双子の兄

さそり……………猛毒を持っている

ゼウス……………主神たる全能の神

#1野原

アルテミス「オリオン、さあ今日も狩に行こう」

オリオン「アルテミス、森じゅうの獲物たちを取りつくしてしまうぞ」

走り去っていく二人。

アポロンとさそりが見ている。

アポロン「月と狩の女神に、男はふさわしくない。おい、さそり、オリオンを始末しろ」

さそり「かしこまりました。アポロン様」

#2同

さそり「やいオリオン、お前に恨みはないが命をもらおう」

おそいかかるさそり、逃げるオリオン。

#3

アポロン「わが妹よ、遊んでばかりでずいぶん腕が落ちたみたいだな」

アルテミス「失礼なことを言わないでアポロン。どんなに離れた獲物でも外さないわ」

矢を放つアルテミス。**(実際には子どもに向かって矢は放ちません)**

#4

飛んでいく矢。遠く離れたオリオンに当たる。

オリオン「ああ!」

#5

アルテミス「あの声はオリオン!……………オリオン!」

#6ゼウス

ゼウス「かわいそうなわが娘。せめてオリオンを高みに上げてやろう」

#7夜空

オリオン座。消えるときそり座が出てくる。

ナレーション「こうしてオリオンは星座になりました。さそりもまたオリオンを追いかけて星座になりましたが、オリオンはサソリを恐れ同じ天空に上ることはありません」

B組作品 「亡き妻を探すオルフェウス」

登場人物

オルフェウス……堅琴の名医

ケルベロスA、B、C……地獄の番犬

ハデス……冥界の王

ペルセポネ……冥界の女王、ハデスの妻

エウリデュケ……オルフェウスの妻

#道

歩くオルフェウス。

ケルベロスたちが登場する。

ケルベロスA「誰の許しを得てこの道を行くのだ」

オルフェウス「なんだ、お前たちは」

ケルベロスB「冥界めいかいの番犬、ケルベロスだ」

ケルベロスC「ここは死者の通る道。生きている人間を通すことはできない」

ケルベロス「私はただ、妻を返してもらいたいのだ」

オルフェウスが堅琴たてこを奏でると、ケルベロスたちうつとりして「ああ」と天を見上げる。

そのすきに通り過ぎるオルフェウス。

#冥界

堅琴を奏でるオルフェウス。

ペルセポネ「こんな音楽を奏でる人は、美しい心の持ち主。あなた、オルフェウスに奥さまを返してあげて」  
ハデス「ペルセポネに免じて一度だけエウリデュケを生き返らせてやろう」

エウリデュケ、奥から出てくる。オルフェウスの手を握る。

オルフェウス・エウリデュケ「ありがとうございます。ハデス様」

ハデス「ただし一つだけ条件がある。地上に戻るまで決して振り返ってはいけない」

#道

道を歩くオルフェウス。

オルフェウス「エウリデュケ……エウリデュケ、どうして返事をしない。……本当についてきているのか。……お願い  
いだ、なにか話してくれ」

我慢できずに振り返ってしまうオルフェウス

すぐうしろにエウリデュケが立っている。

エウリデュケ「オルフェウス、どうして神との約束を破ってしまったの」

消えるエウリデュケ。

オルフェウス「エウリデュケ！」

ナレーション「その後オルフェウスは死ぬまで孤独に暮らしました」

C組 「豊穰の女神デメテル」  
ほうじょう

登場人物

デメテル……豊穰の女神

ペルセポネ……デメテルの娘

ハデス……冥界の王

ゼウス……主神たる全能の神

農民A、B、C

#野原

デメテルが農民A、B、Cに囲まれている。その後ろに娘のペルセポネがいる。

農民A 「デメテル様、大地から恵みを受けられるのはあなたのおかげです」

農民B 「ここは私たちが命をかけて開墾かいこんした地」

農民C 「今年も豊かな実りを与えてください」

陰からハデスがペルセポネを手招きする。

デメテル 「ペルセポネ、どこに行くの」

ペルセポネ 「お母様が命の輝きをもたらした美しい世界を、もっとこの目で見たいのです」

デメテルの目を盗んで、ハデスのもとに走って行く。ペルセポネ。ハデスとともに去っていく。

#冥界

ハデス 「覚悟はできているね、ペルセポネ」

ペルセポネ 「あなたと一緒だったら私は冥界めいかいの女王になっても平気です」

ハデス 「誓いのしるしにこれを食べるのだ」

ざくろの実を食べるペルセポネ。

3

#野原

デメテル 「ペルセポネ、どこにいるの。……娘のいない世界など存在している価値はない。こうしてやる！」

魔法をかけると世界が真っ白になる。

農民たち、寒さのあまりその場にしゃがみこむ。

#情景

白く変わる山々、野原。

#冥界

ゼウス 「こんな氷の世界ではだれも生きられない。ハデスよ、この娘をデメテルの元に戻すのだ」

ハデス 「それはできません、ゼウス様。彼女はざくろの実を食べてしまったのです。もう冥界からは抜け出すことはできません」

ゼウス 「仕方ない。それでは一年の3分の1だけ彼女と共に暮らすことを許そう」

#野原

ペルセポネ 「お母様、ごめんなさい。世界を元に戻してください」

デメテルが魔法をかけると元の緑の世界になる。

かがんでいた農民が立ち上がる。

農民たち 「ありがとうございます。デメテル様」

#緑の大地

ナレーション 「デメテルはこうして娘を取り戻しました。しかしペルセポネが冥界にいつてしまう季節には、デメテルは娘を探してさまよい、……」

大地が白く変わる。

ナレーション 「そのあいだ世界は凍り付いてしまうのです。こうして冬という季節ができたのです」

D組 「月桂樹げっけいじゅになったダフネ」

登場人物

アポロン………太陽神。(本来は音楽、弓矢、牧畜の神)

キューピッド………愛の天使

ダフネ………河の神の娘

#道

アポロンとキューピッド

アポロン「おい、キューピッド。人の恋をからかってばかりいるな。子どものくせなまいきに生意気なやつめ」

去っていくアポロン。

キューピッド「なんだい、馬鹿にしゃがって。今に見てるよ」

#野原

妖精たちと遊んでいるダフネと、近くで竖琴たいていを弾ひいているアポロン。

キューピッド、金の矢を出す。

キューピッド「これは見た人に恋をする金の矢」  
**(実際には子どもに向かって矢は放ちません)**

アポロンに打ち込む。

キューピッド「そしてこれは見た人が大嫌いになる鉛の矢」

ダフネの胸に打ち込む。

アポロンとダフネの目と目が合う。

アポロン「ダフネ、君こそ私の理想的な女性」  
ダフネ「私は決してどんな男のものにもならない。つかまえられるものならつかまえてごらんなさい」

#道

走るダフネ。

追いかけるアポロン。

ダフネの姿が消える。

アポロン「あー！」

大きな木を見上げるアポロン。

ナレーション「ダフネは木へと姿を変えてしまいました」